

第1回全国キャラバン講習会<関西編> 開催結果・アンケート結果の報告

I. 開催内容

1. 日 時：2010年1月29日(金) 18時～20時

2. 会 場：大阪市北区梅田1-2-2 大阪梅田駅前第2ビル4階 キャンパスポートA会議室

3. 開催の趣旨

環境アセスメント学会では、論文にない情報、次世代のシーズやニーズ、現場で実感する課題、国際会議の報告など身近な話題について、自由・活発な意見交換の場として、「キャラバン講習会」を行うこととした。

第1回は、2008年7月に本学会により纏められた「環境アセスメントを活かそう<環境アセスメントの心得>」を用いて、環境アセスメントに係わる基本的な情報について講習会を開催し、公共事業を中止するときなど今日的な課題を含む環境影響評価の考え方について話題提供と質疑応答を企画した。なお、参加費は無料とした

4. プログラム

18:00～18:10 趣旨説明 矢持 進 (大阪市立大学大学院 工学研究科)

18:10～19:55 講習及び質疑応答

①：環境アセスメントを活かそう<環境アセスメントの心得>

石川公敏 (環境アセスメント学会理事)

②：公共事業を中止するときなど今日的な課題を含む環境影響評価の考え方

鹿島 茂 (環境アセスメント学会会長 中央大学 理工学部)

19:55～20:00 閉会の挨拶 市川陽一 (龍谷大学 理工学部)

II. 開催結果の総括

行政、事業者、環境コンサルタント、大学などから33名の参加があった。当日は新幹線の事故で鹿島会長の講演は中止になり、石川公敏理事の講演と参加者間の意見交換を行った。

参加者からは、環境アセスメントの重要性を改めて認識した、SEAには環境部局だけでなく政策部局も係わる必要がある、アセスにメリハリが必要など、多くの意見がだされた。

講演後のアンケートでは、有意義だったという意見が多く、好評であった。

III. アンケートの結果

1. 今回の講演について

○残念なことに、鹿島先生のご講演を拝聴できなかった訳ですが、石川先生のわかりやすいご講演に加え、その後のフリーディスカッション(?)では、官・民・学・コンサル、様々な立場の卒直な思いが聞くことができ、とても有意義でした。また、このような機会があれば参加したいと思います。【自治体職員】

○今回の内容は概念的な内容が多く、やや消化不足であった。最後のディスカッションでは様々な意見を伺えて良かった。【民間研究所職員】

○大変勉強になった。実際のアセスに関する事業主である行政として、改めて環境アセスの重要性が分かった。【自治体職員】

- 精神論を面白く聞かせていただきました。【民間会社職員】
- お忙しい中、ていねいに御説明頂きありがとうございます。理念的な内容が多くなっていますが、やはり行政がどのようなスタンスでアセスをやっていくべきものなのか、それを再認識させていただきました。【自治体職員】
- 環境アセスメントについて、事業計画を環境に配慮したものにするための制度という認識で日々業務を行っています。今回の講演で、持続可能な社会という視点から見る必要性を知りました。しかし、環境配慮の面以外で、貢献できるか疑問です。【コンサル会社職員】
- 非常に勉強になりました。ありがとうございました。市民・NPO の参加について、計画の段階から意見を言う機会・仕組みが、不足しているように思う。反対派の説得の話が出たが、「説得」ではなく、一緒に検討していく必要があるのでは？ より妥当・有効な事業を行うための計画を皆でつくっていく仕組みがほしい。【コンサル会社職員】
- 大変参考になり、とても有意義でした。有難うございました。【自治体職員】
- SEA について、環境部局が行うのではなく、本来は政策企画部局が主導すべきとのお話があったと思いますが、タテワリ行政にどっぷり浸かっている者として、目からウロコで、全くそのとおりだと思いました。環境分野の専門家も必要ですが、あらゆるぶんやの人が環境化する必要があると思います。【自治体職員】
- 今日、聞けなかった話をどこかでして下さい。【自治体研究所職員】

2. 今後希望されるテーマ

- 日本における合意形成とアセスのあり方を考える。【自治体職員】
- アセスの成功事例等を勉強できればと思います。【コンサル会社職員】
- 具体的な予測手法や評価方法、さらに環境保全措置について講演して欲しい。【コンサル会社職員】
- 実務レベルでの、生態系の影響等、環境項目別に検証できるような内容の講義。【自治体職員】
- 生態系評価（調査・予測・評価手法）。アセス手続きの利点、欠点、改善について。ベスト追求型アセスは手続きにもあてはまるのでは？ リプレースアセスは手続きを省略できるのではないか？【民間会社職員】
- アセス審査委員からの環境影響評価のあり方を会場と議論してはどうか。【コンサル会社職員】
- 環境アセスの項目の選択（メリハリ）の視点。環境アセス結果をいかにわかり易く関係住民に伝えるか、伝えるための Point、など。【自治体職員】
- 実事例を用いたアセスメント実習講習。【自治体職員】
- 具体的事例の検証など。【自治体職員】
- アセスはいつ終了となるのか？ アセスの検証、効果を見つめ直すことはすばらしい考えだと思いました。特に行政だけでなく様々なステークホルダーからのアセスの評価を考えることは重要である。【自治体職員】

3. その他

○アセス審査における専門家の役割に関する提言について、素晴らしい成果が出されることを期待しています。行政が専門家を選ぶ「選び方」についても課題提起されましたので、専門家選任方法について勉強したいと思います。今後の学会のご活躍に期待申し上げます。

【自治体職員】

○学会の活動は東京がメインとなっておりますが、関西での活動も盛り上げていただきたいと考えています。【コンサル会社職員】

○環境アセスメントは、未来志向すぎる。過去の事例を科学的に検証することで、「環境アセスメント学」とすべきであろう。また、学会意見として、社会への提言を積極的に行い、学会として制度の運用方法を示すべきであろう。そういう学会の姿勢を期待したい。【コンサル会社職員】

○企業予備軍である高校生や大学生の意識向上、教育がますます重要になってくると思われます。学生の間は住民やNPOのスタンス、卒業し就職したとたん、企業側のスタンスになるケースがこれまで多く見られますが、共通の認識がもてるような学生時代からの教育カリキュラムを考えていただければ幸いです。（企業にとってもメリットになるようなアセスメントという認識）【自治体職員】

○講演以上に、様々な業種の方々の意見が聞けて良かった。【コンサル会社職員】

○途中、意見でも出ましたが、アセスのコスト低減や効率化など、「不要」と判断する根拠と責任の所在を明確にすることが必要と思います。4ページ目の「企業について」の行で情報の公開のお話がありました。民間企業にとってアセスメント事業等は官庁の委託業務です。守秘義務が課せられている上、著作権も有されている中、どの様な形の情報公開を求められているかわかりませんでした。【コンサル会社職員】

○メリハリの「メリ」については、社会的要望とバランスを考えると市民権を得るにはかなり厳しいと思いますが、専門家からもこのような意見があることに少し驚きを感じました。現実的には「ハリ」を主張される専門家が多いことを申し添えます。【自治体職員】

以上